



「青少年育成センター第156号」で瀬戸内寂聴さんの言葉を紹介しました。今号でも寂聴さんが残された言葉から心に残るものを紹介します。

“自分が淋しいから人の淋しさもわかる”

「人間は孤独で淋しいのが当たり前なのです。自分が淋しいから、人の淋しさもわかる。自分はこんなに淋しいんだから、あの人もきっと人恋しいんだろうと思いやった時に、相手に対して同情や共感が生まれ、理解が成り立ち、愛が生まれるのです」

“今がどんなに辛くても必ず変わる”

「なぜ、あなたがあなたの両親のもとに生まれてきたのか。自分が幸せになるためだけではないのです。誰かのために、誰かを幸せにするためにこの世に送られているんですよ。たった一人でもいいから、自分以外の誰かを幸せにしようという気持ちを忘れないでください」
「寂聴 九十七歳の遺言」(瀬戸内寂聴 朝日新書)から



子どもにかけたい言葉

新しい年度が始まり、3か月が過ぎました。子どもたちは元気に学校に通っているでしょうか？多くの方が、「毎日、楽しそうに登校しているよ」と言われることでしょうか。しかし、「学校で何か嫌なことがあったのだろうか、登校を渋ることがある」と心配しておられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。子どもが登校を渋ることは親にとって本当に心配なことです。私たちの相談室に、一番多い相談も「不登校問題」です。

子どもたちが、学校で集団生活をしているといろいろな出来事があり、楽しいことばかりではなく、嫌なこともあるでしょう。嫌なことでもすぐに自分で気持ちを切り替えて生活できる子どももいますが、なかなか解消できずに心の中に溜めてしまい、苦しむ子どももいます。

その時、親として大切なのは、できるだけ早く子どもの変化に気づいてやることです。そのためには、平素から子どもとのコミュニケーションが取れるようにしておくことです。できるだけ、食事は一緒に食べるようにしましょう。食事を摂りながら一日の出来事を話したり、社会の出来事であったり、何気ない話でもいいでしょう。一緒に話す機会をもつことが大切なのです。

子どもの変化に気づいたときには、どうしたらいいのでしょうか。

「最近元気がないのだけどどうしたの。お母さんに話せるかなあ」と気軽に声をかけてみましょう。原因が学校での生活であれば、学校の先生に相談するのがいいでしょう。担任の先生、保健室の先生、校長先生、教頭先生、誰でもいいのです。

学校の先生に相談しにくいことであれば、県内、市内、様々な相談機関があります。そこで相談することもできます。大切なことは、すぐに登校を促すのではなく、話をしっかり聞いてやり、あなたの味方だよという気持ちを伝え、信じてやるのが大切です。

悩みを持っている子どもに助言をするときに、上記の寂聴さんの言葉を紹介するのもいいのではないのでしょうか。あなたの言葉で話してやってください。